

国際緊急援助

一つでも多くの笑顔を取り戻すために



トンガ：緊急調達した飲料水などの緊急援助物資を国際緊急援助隊(自衛隊部隊)の輸送機で輸送した

JICAは海外で大規模な災害が発生した場合に、被災国政府または国際機関からの要請に基づき、緊急援助を実施しています。支援の形態には、国際緊急援助隊(JDR: Japan Disaster Relief Team)の派遣と、緊急援助物資供与があります。

1. 国際緊急援助隊派遣

JDRには、救助チーム、医療チーム、感染症対策チーム、専門家チーム、自衛隊部隊の5つの派遣形態があります。

救助チームは、都市型地震発生の際、被災者の捜索・救助活動を行います。国際捜索救助諮問グループ(IN SARAG)から「ヘビー」級チームとして認定されており、20回の派遣実績があります。医療チームは、被災国での医療支援を実施します。世界保健機関(WHO)から緊急医療チーム(EMT)として認証されており、59回の派遣実績があります。2015年には感染症対策チームを新設。これまでコンゴ民主共和国(黄熱、エボラ出血熱)、

サモア(麻しん)へ派遣しています。

2021年度は、トンガにおける火山噴火および津波被害に対する緊急援助物資の輸送のため、自衛隊部隊を派遣しました。

2. 緊急援助物資供与

緊急援助物資を被災地へ迅速に供与するため、世界5カ所の倉庫に物資を備蓄しています。2021年度はトンガのほか、アジア、アフリカ、中南米各地域の国々に計13回の物資供与を実施しました[→別冊(資料編)表15を参照ください]。

3. 平時からの応急対応への備え

年間を通じて種々の研修・訓練を実施し、JDR隊員候補者の能力強化を図っています。また、関係国際機関などとの連携強化やASEAN地域における災害医療の連携体制の構築と能力強化に取り組むとともに、応急対応から復旧・復興に向けたシームレスな支援の展開に向け、他部門との連携を強化しています。

日本の国際緊急援助体制

